

第8回水稲病害虫発生予察結果（伊豆市内）



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種（コシヒカリ・ひとめぼれ等）

【生育状況と栽培管理】

4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼでは、乳熟しはじめている穂が見られました。乳熟はお米の元となる白い液体が籾の中にたまり始めますが、カメムシはこの液体を好んで吸汁をしてくるようになります。

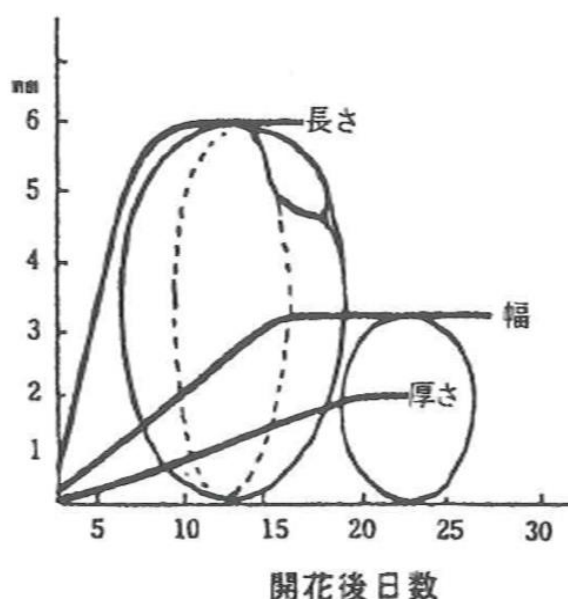
また、籾の生育には水が必要になりますので、間断灌水の水管理をお願い致します。

《玄米の成長に要する開花後日数》

- ①米粒の長さは5～6日頃
- ②米粒の幅は15～16日頃
- ③米粒の厚さは20～25日頃 に決まる



玄米の成長に要する期間は生長を促すために田んぼに水が必要となります。



【病害虫の発生状況】

早生品種の田んぼでは必ずカメムシが発見されております。粉剤の農薬で防除を行った方はその一週間後を目安に2回目の粉剤防除を行って下さい。詳しい防除タイミングや防除方法については前回の予察結果をご覧ください。

カメムシの粉剤防除のポイント

カメムシが株の上側で活動する日没から早朝までの時間帯であれば、粉剤による防除が効果的ですが、気温の高い日中は株の下側に隠れていることがあり、この時間帯は粉剤では十分な防除ができない事があります。

そのため、粉剤によるカメムシ防除を行う場合は午前9時まで、もしくは午後17時以降の比較的気温が低い時間帯を狙って散布することをおすすめします。

5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

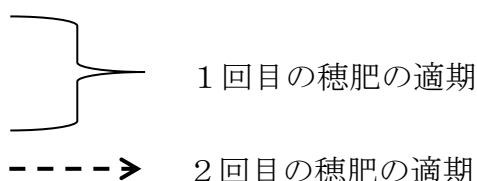
【生育状況と栽培管理】

幼穂は0.5～1.5cm程度確認されました。元肥一発肥料を使用していない方は、穂肥の施用が必要となります。

穂肥は1回目と2回目に分けて行いますが、1回目の穂肥を施用した1週間後に葉が濃い緑色をしている場合は、2回目の穂肥を施用する必要はありません。穂肥の施用のタイミングと、施用量は下表をご確認ください。

穂肥の施用のタイミング

幼穂の長さ	出穂前日数
0.1cm	25日
0.5cm	20日
1.5cm	18日
5.0cm	12日



穂肥の施用量

種類	肥料名	施肥量(10a)	施用時期
穂肥1回目	NK化成2号	10kg	出穂18日前に施用
穂肥2回目	NK化成2号	10kg	出穂10日前に施用

【病害虫の発生状況】

早生品種の田んぼではカメムシが発見されております。早生品種の刈取りが終了した後に、晩生品種の田んぼにカメムシは移動をします。カメムシ防除として今できることは下記の通りとなります。

- ・ **水田周辺（畦畔、農道、休耕田など）の雑草を除草することにより、斑点米カメムシ類の発生源を減らすことができます。**
- ・ **除草は出穂の約2週間前（10～15日前）に終わらせ、その後、収穫2週間前までは除草をしないようにしてください。**
(除草により、斑点米カメムシ類が水田に逃げ込むのを防ぐため)
- ・ **水田内の雑草管理もしっかり行うようにしてください。**

過去の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！



作成日：令和5年7月26日
JAふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461